

稲城市若葉台(坂浜)の歴史を探る

明治大学非常勤講師 渡辺賢二

1. 若葉台地域とは？

1) 多摩ニュータウンの開発にともない生まれた新しい街

① 1971年に多摩ニュータウン稲城地域の計画が決まり、それ以降、市域の17%、292haの開発が進められた。資料1

② 向陽台、長峰地域に続き、1999年3月に若葉台が街開きし、坂浜から離れた。2009年にiプラザが開館した。

2) 開発にともなう発掘調査で起こった出来事① 広大な丘陵開発にともない

原始社会の姿が明らかになった。

② 同時に「歴史の偽造事件」も生じた。

2. 若葉台(坂浜)の原始社会

1) 多摩丘陵に人が住みはじめたのは？

① 多摩ニュータウンの遺跡群(964カ所)。

② 旧石器時代の遺跡...坂浜遺跡からも旧石器が発見。

2) 多摩丘陵に定住をはじめた人たち...縄文時代(約13000年前から約3000年前)

① 坂浜(駒沢学園)遺跡から約1万年前の土器や石器が発掘。

② 若葉台地域からは縄文中期(約5000年前～約4000年前)の住居跡約170軒が発掘。資料2

③ イノシシの人形も出土。90点を超す土偶は東京都の文化財に指定されている。資料3

④ 日本に農耕がもたらされる弥生時代の遺跡は少ない。

3. 坂浜の中世(奈良・平安・鎌倉・戦国時代)

1) 武蔵の国の成立にともない坂浜はどうなったのか？

① 武蔵の国府造営と工人村。資料4

・大丸窯跡群。

② 坂浜の工人ムラ。資料5

③ 国府(府中)から鶴川方面に抜ける街道。

④ 若葉台(坂浜)は師岡荘と江戸時代まで称していた。資料6

2) 多摩川をはさんで戦った武士(もののふ)たち

① 中世にはいると在地の豪農は武装し、自分の土地を守るようになった(武士の誕生)。

② 南北朝の内乱後戦国時代に至るまで多摩川をはさんでの戦争が激しく展開された。

③ 稲城には山城がいっぱい造られた。...大丸城・長沼城・小沢城。

3) 高勝寺と富永氏

① 真言宗高勝寺の建立(1368年)。資料7, 8

・小田原に根拠地を置く後北条の臣下によって建立されたと考えられる。

「古霊簿」の最初に「御宿和守」とある。

・真言密教の修験者が多かった。

② 高勝寺と富永氏。資料9, 10

・「古霊簿」に富永孫左衛門の名が記載されている。

・「新編武蔵国風土記稿」には孫左衛門は後北条に仕え、天正18(1590)年に後北条が滅亡したのち、

長男の主膳正は家康の旗本になり次男の織部が坂浜に土着し帰農した。以降、坂浜の名主を務めた。

③ 中世の信仰遺跡としての板碑。資料11

4. 近世の坂浜1)坂浜をおさめた代官は？資料12

- ①大久保石見守長安から小泉治太夫そして中野吉兵衛重弘へと慶長年間から寛永年間までは引き継がれた。
- ②その後、天野重房に引き継がれた。
- ③村高は246石で大丸村よりはやや高く、矢野口村の約半分、平尾村の約2倍の石高であった。

2)村の生活

- ①高勝寺を中心とした動き。・真言宗高勝寺は京都の仁和寺をの大本山としてさらに坂浜の宝蔵院、平尾の宝泉寺、矢野口の安楽院、矢野口の威光寺を末寺としていた。
- ②村は地名を冠した「コウチュウ」で運営された。資料13
・「上谷(カサヤト)」「堂ヶ谷(ドウガヤト)」「御部屋(オヘヤ)」「鶴巻(ツルマキ)」「小田良(コダラ)」「天神ノ台(テンジンノダイ)」「寺ノ台(テラノダイ)」「宮ノ台(ミヤノダイ)」「内山(ウチヤマ)」「和田(ワダ)」に別れていた。
- ③人名の村組もあった。これが年貢を納める基本単位。
・文政5年の文書には仙次郎組、円蔵組、源兵衛組、三郎左衛門組。
- ④助郷としては布田五宿にいった。伝馬5匹、人足10人をだした。

5. 近現代の坂浜そして若葉台

1)学ぶ坂浜の人たち

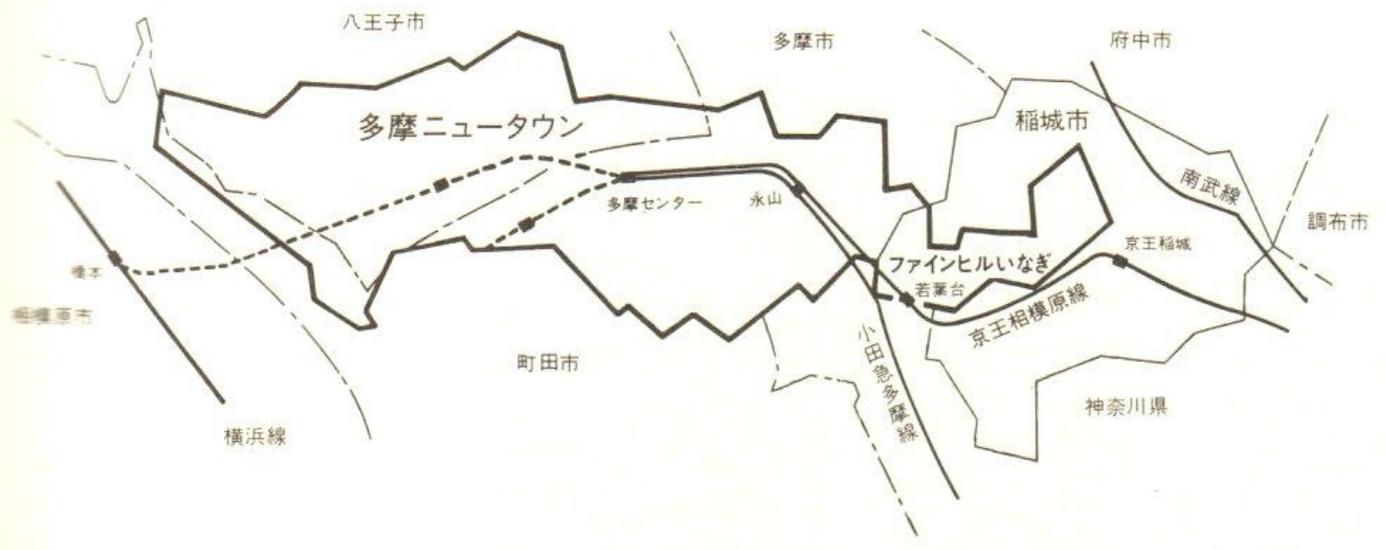
- ①小野郷学校に通う人たち。
- ②奚疑塾(窪全亮)に通う人たち。資料14
- ③立志学校(宝蔵院)の開設。資料15

2)近現代を通しての坂浜の特徴

- ①営々と続けてきた生産の努力。米はもとより魚、養蚕、炭、野菜、牧畜など多様な品種により生活。資料16
- ②今も残る民話の里。小田良地域。資料17
- ③開発と自然保護。親水公園。資料18

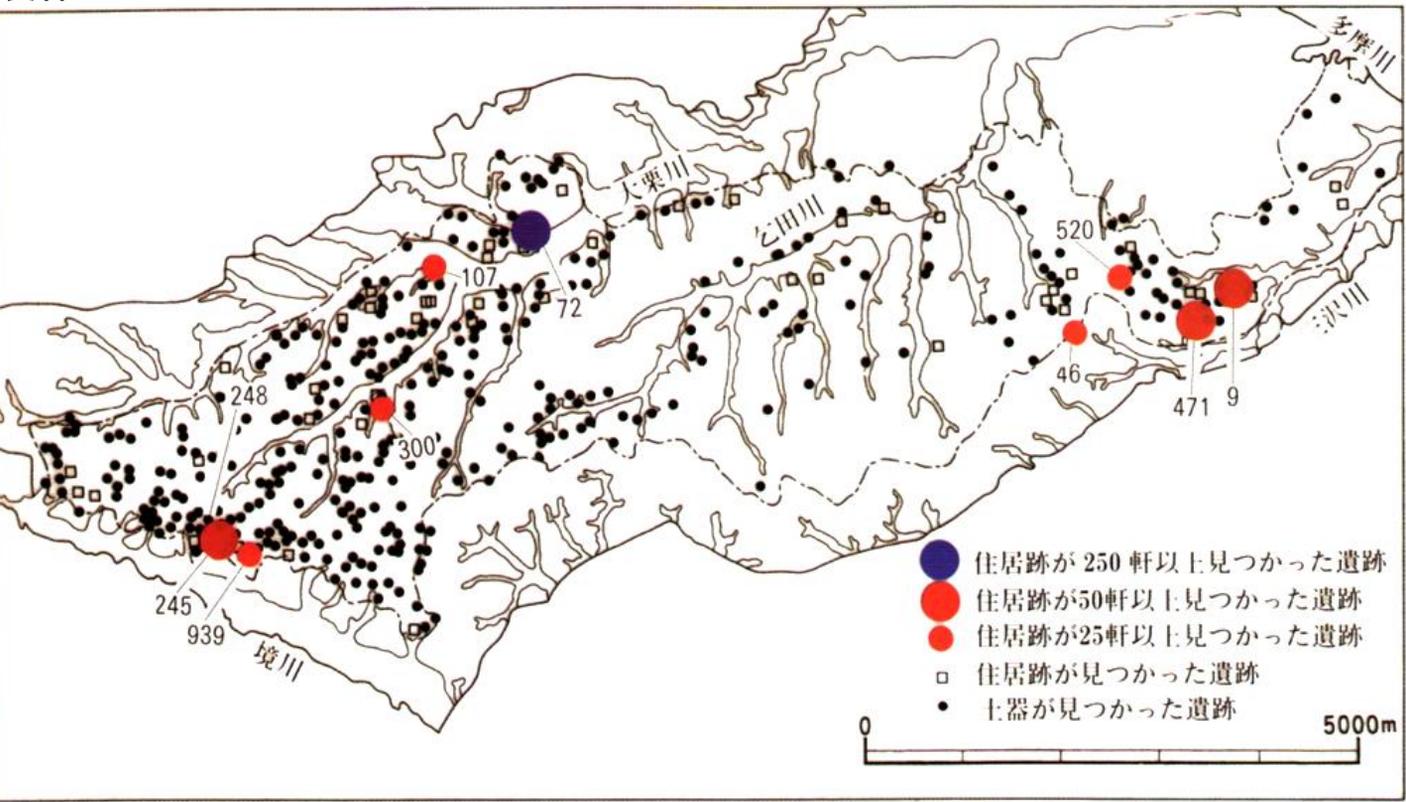
『稲城市若葉台(坂浜)の歴史を探る』資料編

資料1



多摩ニュータウン稲城地区の位置 『多摩ニュータウン キャブシステム』

資料2

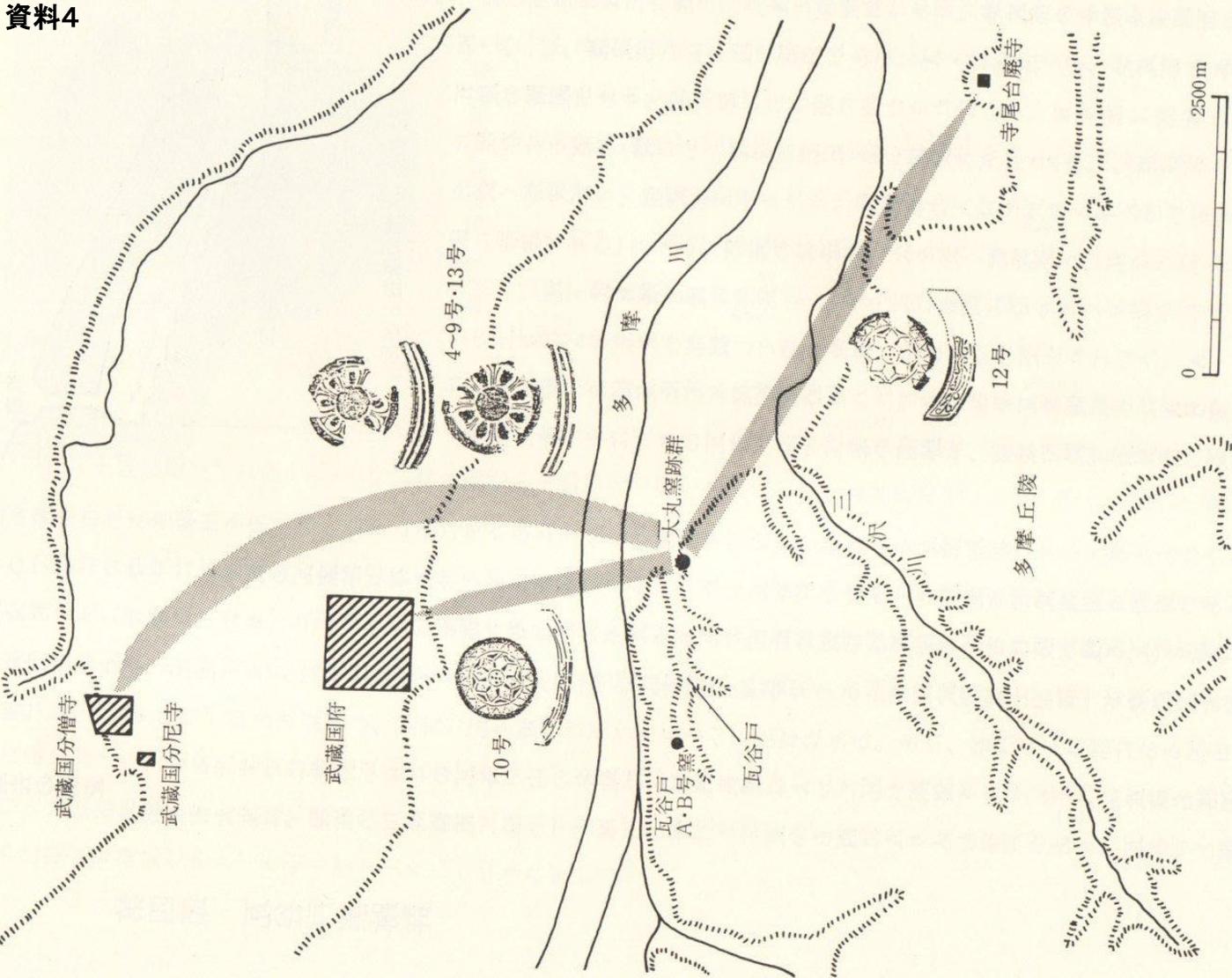


縄文時代中期の遺跡分布図

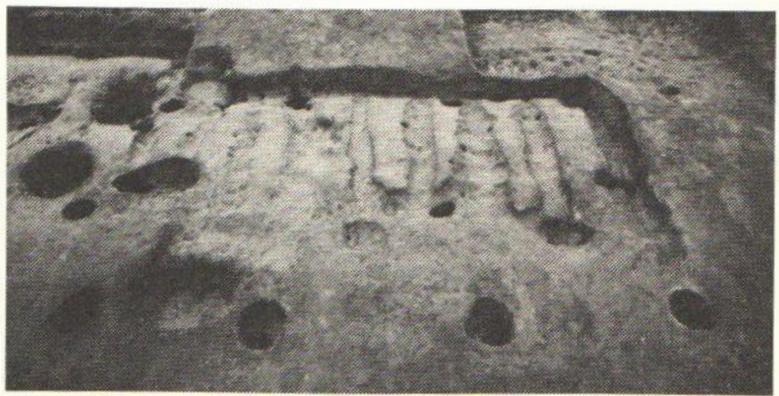
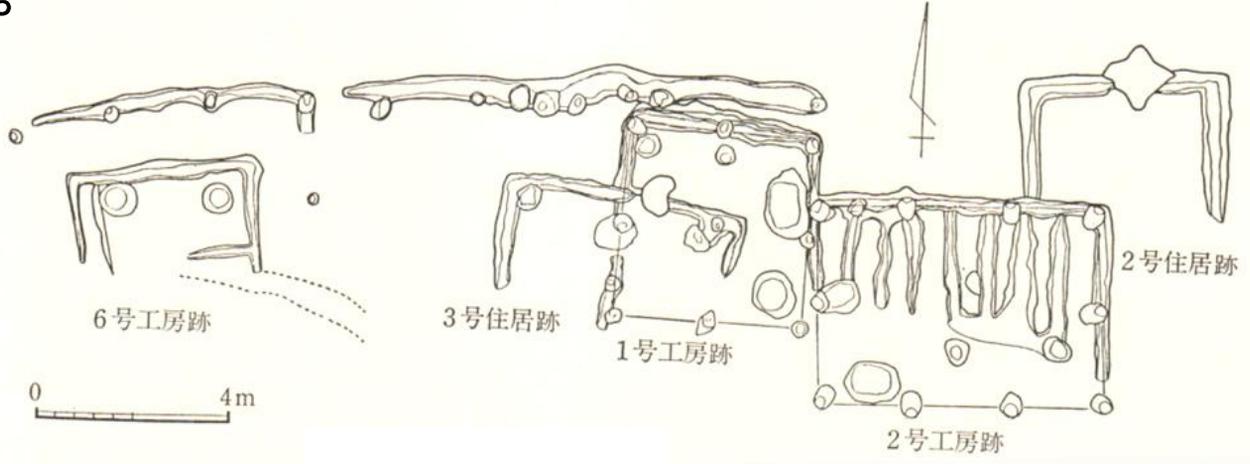
資料3



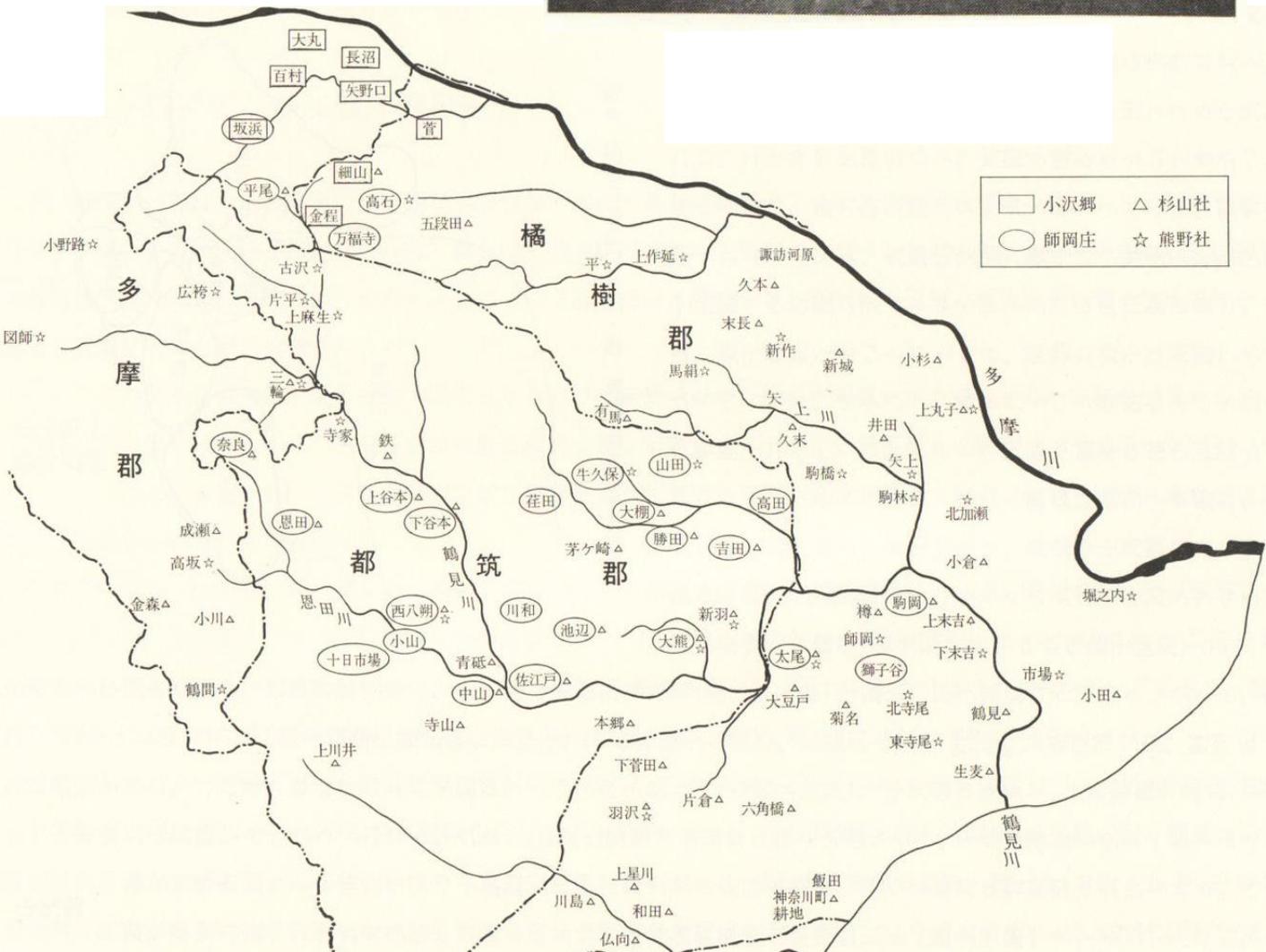
資料4



資料5



資料6



寺院	『新編武蔵風土記稿』の記載	「伝法灌頂血脈」
宝蔵院	末寺／坂浜根方／開山印栄(永禄 10. 7. 10 没)	法流支祖舜応(享保 4. 7. 28. 法流伝授)
妙福寺	門徒／坂浜於部屋／開山師祐(祐仁)(天正10. 3. 13 没) 本尊観音は行基作という	—
宝泉寺	門徒／平尾南谷／観音堂の本尊十一面観音は行基作と いう	現廃寺. 本尊であった阿弥 陀如来は延宝年間の作とい う
安楽院	門徒／矢野口あせい	—
威光寺	末寺／矢野口谷戸／第2世恵範(寛永 20. 4 没)梅元坊 にかわって穴沢天神社の別当となる(延宝 3. 6)	法流支祖賢快(享保 4. 7. 28. 法流伝授)
広福寺	末寺／上菅生松本／慈覚大師開闢. 長弁(安貞元. 正. 10 没)中興. 法流始祖定賢(元禄 16. 8. 12 没)	法流支祖定賢(貞享 3. 12. 21. 法流伝授)
不動院	門徒／上菅生土淵	—
真福寺	門徒／上菅生明王／開山源海(寛文 9 没)	—
観音寺	門徒／五反田／山伏万休庵をつくる. もと福寿院と号 し, 堂屋敷にあり, 歴代に恵秀(寛永 9. 5. 25 没)あり. 中興開山賢随(享保 8. 8. 11 没). 地藏像は四国の津の 寺の良栄(文禄 7. 4. 13 没)が負い来たるもの	法流支祖盛典(寛保 3. 2. 21. 法流伝授)
延命院	門徒／細谷本村／もと修験の嶽照寿仙居士(慶長 3. 2. 10 没)住す. のちに智海(延宝 8. 9. 23 没)住し一寺 となる	—
千寿院	末寺／小野路岩子／元来古き霊場, 一旦廃寺, 天正年 中に再興し恵満開山となる. 観音堂は小山田重義の建 立, のち恵満が富永光吉・光忠の援助を受け再建	法流支祖賢隆(宝永 4. 3. 12. 法流伝授)
清浄院	末寺／小野路七石／開山は順海(天文元没). 後北条氏 の制札あり(天正 13. 7. 21 付)	法流支祖賢昌
円能寺	門徒／小野路／(すべて不詳)	—
正福寺	門徒／小野路堤／(すべて不詳)	—

右靈澤

御宿和泉守名道泉永禄十二年辰年五月九日

御宿和泉守名妙安永禄十二年八月二日

廣田出雲守名廣雲天正十八庚寅年六月二日

高橋越前守名正善年早月日石同前

市川三郎兵衛名洋蓮天正十八庚寅年六月二十三日

水澤甚三郎名道心年早月日石同前

右四人皆武州八王子瀧山落城之討死

富永孫九衛門名正智天正二十甲寅年八月九日有墓

富永主膳正光吉進修石塔有之

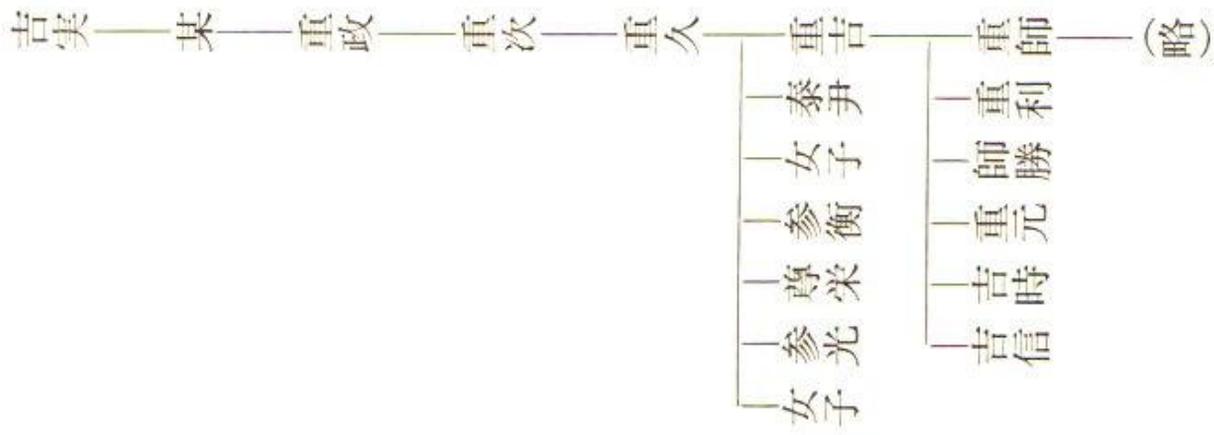
富永三郎寅年三月二十八日逝去富永殿山護國院

富永松院殿無岸鉄心居士石塔有之

富永主膳正光吉室石塔有之

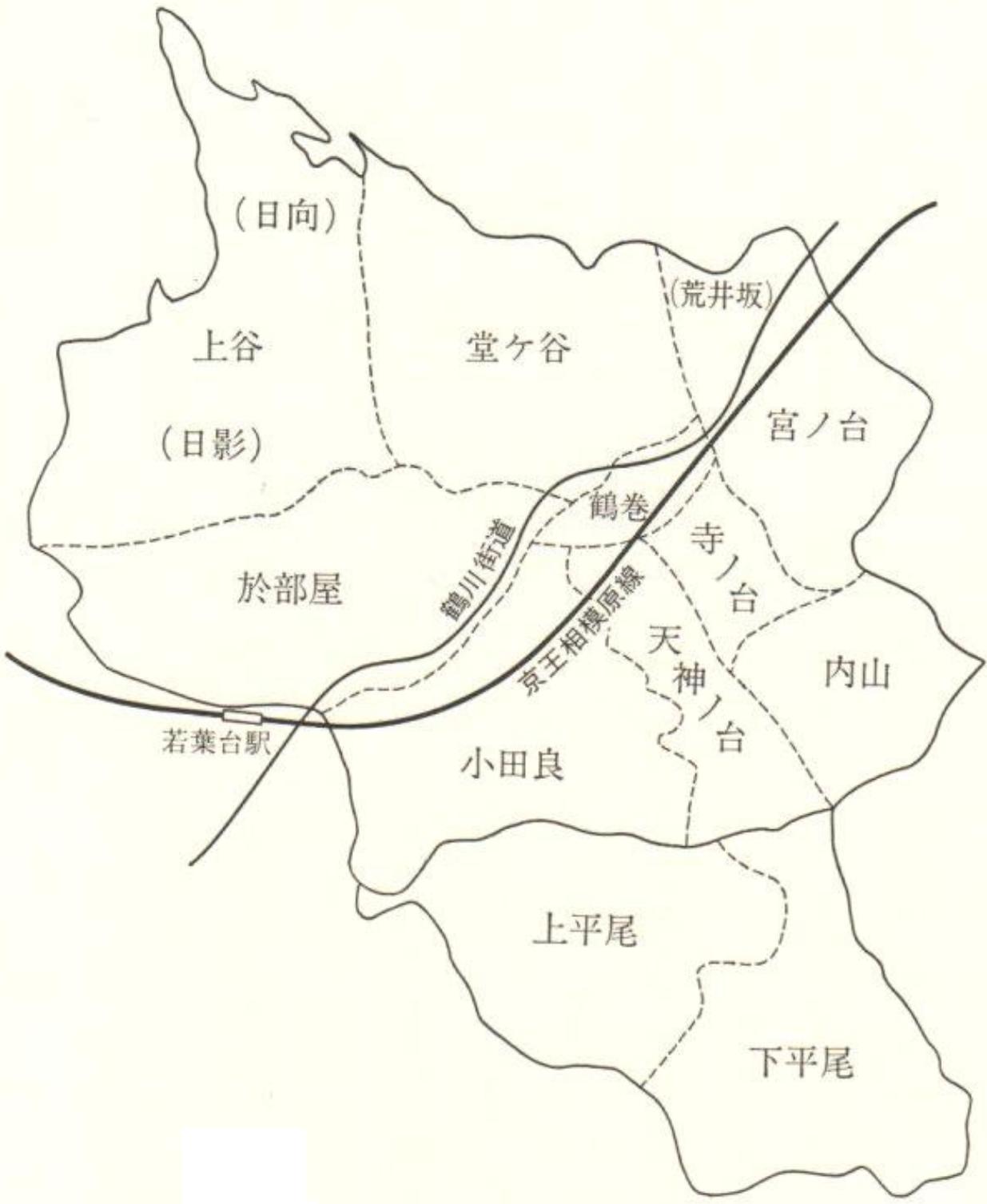
寛永元年三月廿三日富永殿于意寺

帝性院妙祐禪尼

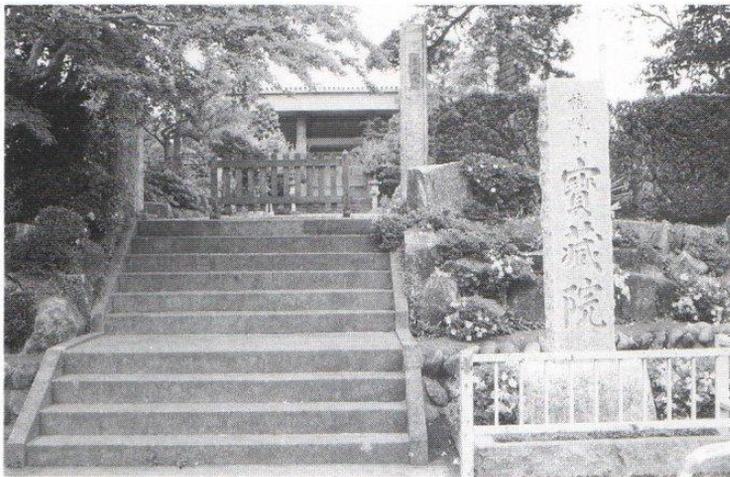


富永氏略系圖

『寛政重修諸家譜』より作成.

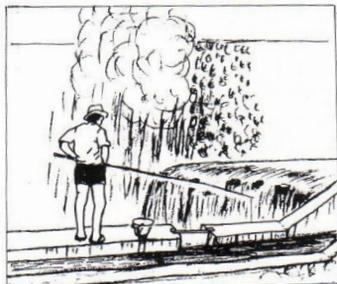
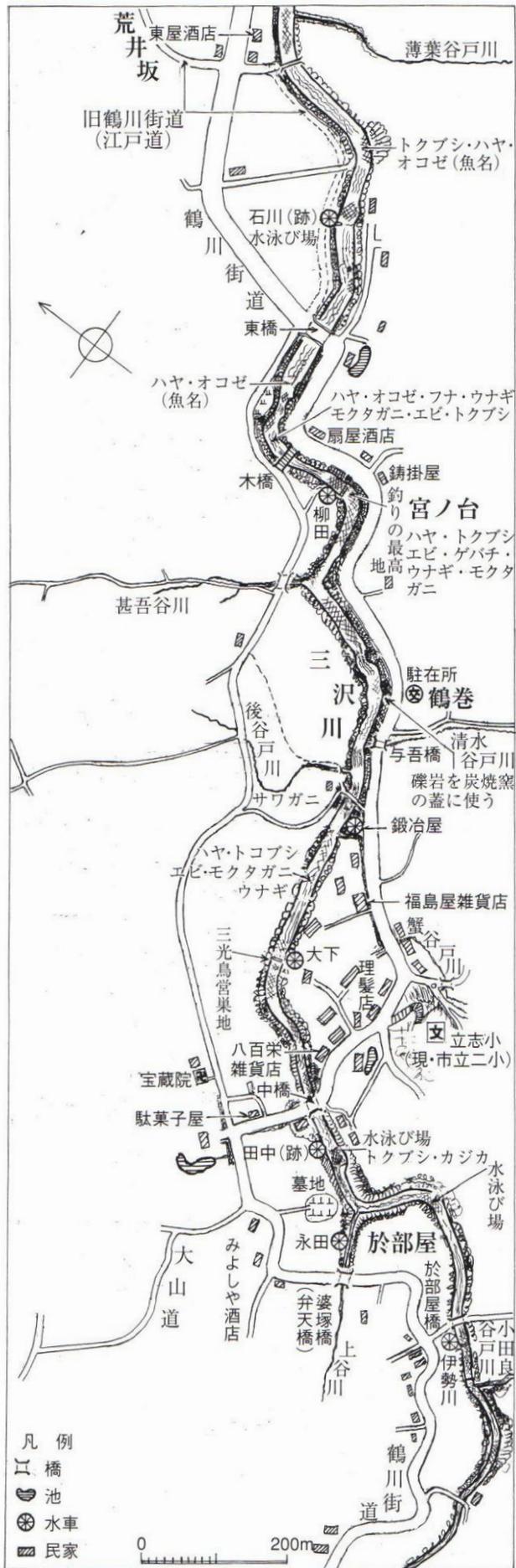


平尾・坂浜コウチュウ図



●宝蔵院

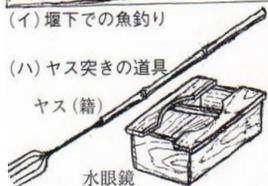
真言宗豊山派で高勝寺の末寺である。『寺院明細帳』によると、元禄10年(1697)に印栄が開基したことが記されている。本堂、庫裡ともに第二次世界大戦の時に全焼し、現在の建物は戦後になって建てられたものである。幕末にはここに寺子屋が開設され、明治5年から42年までは立志小学校の校舎として使われた。稲城の近代教育の場として大きな役割を果たした。



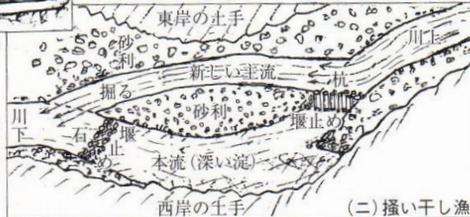
(イ) 堀下での魚釣り



(ロ) 火振り(夜振り)とも・突き漁



(ハ) ヤス突きの道具



(ニ) 掘り干し漁

坂浜の三沢川の魚(昭和14年頃・小泉省二氏画)



↑ 上谷川周辺の風景

小田良地区の民話関連遺跡群 ↑

資料出典

資料1・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13

『稲城市史(上・下巻)』／稲城市史編纂委員会

資料2・3

『多摩の遺跡と遺物 多摩のむかしを訪ねて』／東京都立埋蔵文化財調査センター、東京都立埋蔵文化財センター

資料14

『稲城市文化財調査報告書第23集 奚疑塾と窪全亮』／稲城市教育委員会

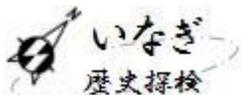
資料15

『稲城市の文化財』／稲城市教育委員会

資料16・17・18

『稲城市文化財調査報告書第20集 稲城市の地名と旧道』／稲城市教育委員会

※資料17・18写真は『いなぎ歴史探検』より転載。



<http://inagi.info>

若葉台・坂浜、稲城市内全域網羅の総合地理歴史専門WEBサイト。
アナタが今住んでいる土地の歴史を知ることができるかも？
興味のある方は是非『いなぎ歴史探検』にアクセスしてください！

いなぎ歴史探検

検索



『稲城市若葉台(坂浜)の歴史を探る』資料編

平成22年11月作成／渡辺賢二・鈴木誠